

東京国立 博物館 ニュース

第701号
展示と催し物
案内

2-3 ◎ 特別展 誕生！中国文明

4 ◎ 特別展予告 東大寺大仏—天平の至宝—

5-10 ◎ 平常展見どころ案内 2010年6月・7月
重文 夏秋草図屏風／「日本美術の流れ」必見ガイド／
特集陳列「磁州窯の枕」ほか

11 ◎ 平成21年度新収品

12-13 ◎ みどりのライオン 教育普及事業
「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方 2」ほか

14 ◎ INFORMATION 15 ◎ TOPICS

16 ◎ 2010年6月・7月の展示・催し物

2010 67 月号



誕生！中国文明

黄河のほとり河南省は中国王朝発祥の地です。
さまざまな工芸技術も、美の伝統もすべてこの地からはじまりました。
その河南省で出土した名品を一堂に集めた「誕生！中国文明」展から、
注目の作品五点をご紹介します。

動物紋飾板

青銅製の板にトルコ石の小片を嵌め込んで、動物の姿を真上から見た様を表しています。飾板の下部にはキツネを思わせる頭があり、口の両側に前脚が伸びています。頭の上には幅の広い尾が、飾り板の最上部では後ろ脚が左右から伸びて先端が向かい合う様子が表されています。中国で王朝が誕生したころ、身分の高い少数の人々が身に付けた、権威を象徴する装身具であったと考えられます。

(谷豊信)



動物紋飾板
夏・前17～前16世紀 長辺16.5cm 洛陽博物館蔵
獣は神様でしょうか？ ただものでないことだけは確かです

金製アクセサリ



金製アクセサリ
北宋・11～12世紀 幅7.2cm 洛陽博物館蔵
匠(たくみ)の高度な技が発揮された逸品

金の針金や細かな粒を丹念に加工し、さらにトルコ石などの宝石を嵌め込むという、なんとも贅沢な仕上げです。同じく金製の簪や耳飾り・腕飾り、銀製の箸や匙など、十数点の貴金属製品とともに、宋時代の貴族の墓から発見されました。おそらく、当時の貴婦人などが身に付けたアクセサリの一部だったのでしょう。

金縷玉衣

玉衣とは美しい石を札状に加工して綴った服です。漢時代の皇族や王侯貴族は亡くなると全身を玉衣で覆い、不老不死になることを望みました。当時の人々は玉が遺体を腐敗から守ると信じていたのです。

この玉衣は漢時代の河南省東部にあった梁国の王墓から出土しました。王の願ひ空しく遺骸は朽ちて中は空っぽですが、合計約二千枚もの玉札と、それらを綴る金製の糸が、最盛期には皇帝にも劣らぬと言われた梁王の威光を示しています。

(川村佳男)



金縷玉衣
前漢・前1世紀 長180cm 河南博物院蔵
両手両足など12個の部分からなる玉衣が王の亡骸を覆っていました

特別展「誕生！中国文明」

7月6日(火)～9月5日(日) 平成館

主催：東京国立博物館、読売新聞社、大広、中国河南省文物局 後援：中国大使館 協賛：清水建設、光村印刷、トヨタ自動車 協力：日本航空、日本貨物航空
観覧料金：一般 1,500円(1,300円/1,200円)、大学生 1,200円(1,000円/900円)、高校生 900円(700円/600円)

* ()内は前売/20名以上の団体料金。中学生以下無料。入館の際に年齢の分かるものをご提示ください
* 障害者とその介護者1名は無料(入館の際に障害者手帳などをご提示ください)

お問い合わせ：ハローダイヤル03-5777-8600

展覧会ホームページ：http://tanjochina.jp/

巡回予定：

九州国立博物館 10月5日(火)～11月28日(日)

奈良国立博物館 2011年4月5日(火)～5月29日(日)

御者と馬

馬は、生活において無くてはならない大切な家畜でした。唐時代には、絵画や工芸品に生き生きとあらわされるようになり、いかに人々にとって身近な存在であったかを知ることができます。両者の表情の豊かさ、いまにも動き出すかのような躍動感など、陶工の力量に驚かされます。また、鞍や御者の衣服には、朱、金、黒の絵具が残っています。制作当時は、鮮やかな彩色が加えられていたことがわかります。(三笠景子)



御者と馬
唐・8世紀 馬:高40cm 人:高35cm 洛陽博物館蔵
馬は、まるで御者に逆らうようなポーズです

細部まで手の込んだ精緻な作りには、宋時代のたいへん高度な技量をみることができます。
(松本伸之)



三彩舍利容器

三彩舍利容器
北宋・10世紀 高47.3cm
河南博物院蔵
異なる装飾技法を複数用いており、手の込んだ作品です

陶製の舍利容器です。三彩の鮮やかさに加えて、獅子と仁王が四面を囲む建物の形にあらわされ、にぎやかな装飾が目をはきまします。舍利とは、釈迦の遺骨を指し、水晶などを舍利に見立て、ガラスや金銀、陶製の容器に納めて崇拜されました。この舍利容器の蓋と身の内側には、「咸平元年(九九八)」の紀年を示す銘文がほどこされていることから、生産年代が明らかかな宋三彩の貴重な作品といえます。(三笠景子)

関連事業

◆記念イベント

「鳳蘭、田原総一朗、チエンシン 夢のエンタテインメント」

日時…7月9日(金)13時30分～16時
会場…文京シビックホール(東京・春日)
入場料(本展観覧券付き)…S 4,000円、A 3,500円、B 3,000円、全席指定。チケットぴあ、ローソンチケット、イーラス、展覧会公式ホームページ等で発売

◆記念講演会

日時…7月10日(土)13時30分～15時

「文字の発生と歩み」新井光風氏(書家)

②8月7日(土)13時30分～15時

「美の競演―中国河南省の文物」松本伸之(当館学芸企画部長)

会場…平成館大講堂

定員…380名(事前申込制 応募多数の場合は抽選)

聴講無料(ただし特別展「誕生―中国文明」の観覧券が必要。半券でも可)

申込方法…往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・希望する講演会の日付を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、左記までお申込ください。

*1枚の往復はがきで、1日分の講演会につき2名まで申込可。2名の場合はそれぞれの氏名をお書きください。

申込先…〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸薬町1-28-9 ヤマシビル4階(ウイングダム内)「誕生―中国文明」広報事務局 講演会

会 ☎7月10日/☎8月7日係

申込締切…①6月21日(月)/②7月20日(火)

◆平成22年度連続講座「中国文明の誕生」

特別展「誕生―中国文明」に関連した3日間の講座です。

日時…7月17日(土)、18日(日)、19日(月・祝)13時～16時15分

会場…平成館大講堂

定員…380名(3日間連続して受講できる方を対象とします。事前申込制 応募多数の場合は抽選)

受講料…1,000円(3日分)

申込方法…往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記して、左記までお申込ください。1枚の往復はがきで1名の応募となります。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育講座室「連続講座」係

申込締切…6月28日(月) 必着

◆記念公演

日時…7月23日(金)18時30分～19時45分

「チエンシンスペシャルコンサート」

出演…チエンシン(胡アーティスト)、中国伝統楽器奏者

会場…平成館大講堂

入場料(本展観覧券付き)…5,500円、全席自由。チケットぴあ、ローソンチケット、イーラスで発売

日時…7月30日(金)18時30分～19時30分(16時30分から会場前で整理券を配布します)

「京劇の夕べ―見方・楽しみ方」

出演…張紹成(京劇俳優)ほか

会場…平成館大講堂

定員…380名(先着順)。入場無料(ただし特別展「誕生―中国文明」の観覧券が必要。半券でも可)



光明皇后1250年御遠忌記念
特別展「東大寺大仏一天平の至宝」

10月8日(金)～12月12日(日) 平成館

主催：東京国立博物館、華嚴宗大本山東大寺、読売新聞社

特別展
予告

光明皇后一二五〇年御遠忌記念

東大寺大仏

—天平の至宝—

大仏建立をなしたとげた聖武天皇と
光明皇后の思いをいまに伝える宝物を一堂に



●八角燈籠羽目板(部分) 銅造鍍金 奈良時代・8世紀 両手に持つのは小型のシンバル。身に着いた帯が風に揺れています



●東大寺金堂鎮壇具のうち 狩狐文小壺
銀製鍍金 奈良時代・8世紀
銀製の壺の表面に馬に乗って鹿を追う狩人が表わされている。その部分だけ鍍金(金メッキ)しています

東

大寺は、聖武天皇と光明皇后が、皇子の菩提を弔うために造営された金鐘寺にはじまります。やがて、金光明寺と名を変え、全国の国分寺を統べる総国分寺に発展し、天平勝宝四年(七五二)には聖武天皇によって盧舎那仏(大仏)が建立されて、日本最大の寺院になりました。東大寺には天平文化を代表する数々の名宝が伝わっており、本展では大仏建立に関わる作品を中心に展示します。

大寺は、聖武天皇と光明皇后が、皇子の菩提を弔うために造営された金鐘寺にはじまります。やがて、金光明寺と名を変え、全国の国分寺を統べる総国分寺に発展し、天平勝宝四年(七五二)には聖武天皇によって盧舎那仏(大仏)が建立されて、日本最大の寺院になりました。東大寺には天平文化を代表する数々の名宝が伝わっており、本展では大仏建立に関わる作品を中心に展示します。



●誕生釈迦仏立像

銅造鍍金 奈良時代・8世紀
生まれたばかりの釈迦の像は、4月8日の釈迦の誕生日を祝う花会式のためにくさん進められていますが、これは高さ47.5cmと古代の誕生仏では最大

大仏周辺の作品は大きいことが一番の特徴です。大仏殿前の銅造八角燈籠は高さ四・五メートルを超す大型のもので、寺外に出るのは今回が初めてです。火袋羽目板に表わされた菩薩像が天平の華やきを伝えます。誕生釈迦仏も通常の数倍という大きさです。そのやわらかな微笑みは一二五〇年の時を隔てて同じように人々の心を癒すでしょう。金堂鎮壇具、大仏開眼会などに使用された伎楽面が出品されるほか、輸送不可能な大仏については大迫力の映像でご覧いただけます。お寺では見ることのできない姿に出会えます。どうぞご覧ください。(浅見龍介)

東洋館

リニューアルオープンへの道

第1回



地震対策のため東洋館が休館してから1年たちました。その間、補強工事が進められたのはもちろん、平成24年の開館を目指して、新たな展示のイメージも膨らんできました。

昨年以來、東洋館の新たな展示ケースや展示の手法、照明、解説やサイン・グラフィック、収蔵庫など、それぞれの問題について、研究員に対する聞き取り調査を重ね、それらをとりまとめて、関係する研究員全員で方針を話し合う、ということを繰り返しています。

その時に威力を発揮するのが、50分の1スケールで東洋館を再現した模型です。構想が進むたびに展示ケースなどの模型を組み込み、実際の見え方を検討しています。

今号から、開館までの2年間、東洋館の準備の経過を毎号お知らせします。(白井克也)

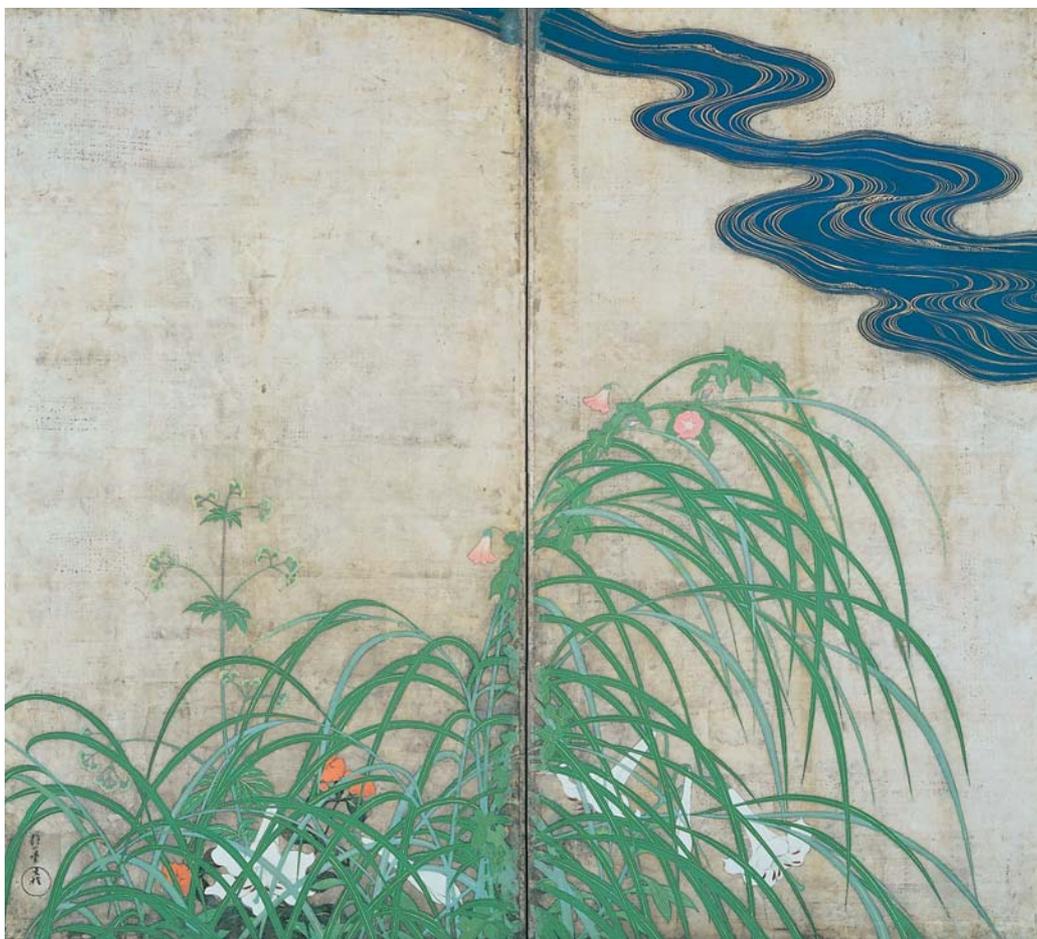


リアルに再現された50分の1模型

これだけは
見逃せない!
おすすめの
この1点

重要文化財 夏秋草図屏風

6月29日(火)～8月8日(日) 本館8室 書画の展開



◎夏秋草図屏風 酒井抱一筆 江戸時代・19世紀
夏のにわか雨にうなだれる夏草(上・右下)と秋の冷たい風に吹かれる秋草(下左)。季節の瞬間の表情を見事にとらえています

琳派という、美しい絵の具とデザイン化されたモチーフの組み合わせによる、明るく華やかな作品を思い浮かべることでしよう。俵屋宗達、尾形光琳、そしてこの作品を描いた酒井抱一は、時代を異にしていますが、作品を通じて一つの流れに連なり、琳派という流派を形成していました。抱一はその流れを強く意識して、宗達、光琳の作品を写したり、その翻案を試みています。この作品もそのような意識の中から生まれたのですが、作品の表現に直接的なつながりを見出すことが難しいほど作品の印象は異なっています。

宗達、光琳が金の輝きに満ちた作品を得意としたのに対し、抱一は銀の冴えた光に独自の美意識を開いていきました。その代表作が「夏秋草図屏風」です。絵画の世界は、長い間京の都を中心に展開してきました。江戸の地で新たな美の世界が展開するのは十八世紀後半になってからです。江戸の地で誕生した鮮やかな浮世絵の錦絵にも、「紅嫌い」と呼ばれる、墨を主として色彩を抑えながら精緻で洗練された華やかさを表現する作品が登場します。「いき」を好んだ江戸の人々の美意識は、さっぱりとしながらも緊張感をはらんだものでした。外に露わにはしない心の内が隠されているような。その奥に人の情が潜んでいるようにも感じられます。

雨に打たれ重く垂れる青薄。細く伸びる葉の重なりと表裏で塗り分けられた緑の色感に、繊細さと冷たさ、時間の止まったような不安感が感じられます。葉の間から透かして見える真っ白な鉄砲百合、赤い仙翁花。薄に絡みつく淡い紅色の昼顔、一本だけ伸びる女郎花。上方に金泥の細い線で流れを描いた鮮やかな群青のにわか雨による水の流れは、空にあるのかと思える不思議な配置。ここには、宗達、光琳の絢爛なイメージとは異なる世界があります。

この作品は光琳の「風神雷神図屏風」の裏に描かれました。「風神」の裏に、風に吹き上げられる葛や葛を描いた「秋草」を配し、この「夏草」は、にわか雨をもたらす「雷神」の裏に描かれています。

自らの隠棲の居を雨華庵と名付けた抱一が、光琳を追って描いた作品です。

(田沢裕賀)

6-7月の
必見ガイド
本館2階

必見!
黒韋肩妻取威胴丸
室町時代・15世紀
札を黒韋と白や紅の糸で
つづり合わせた、華やかな
甲冑です
6月13日(日)まで展示

必見!
三鱗紋兵庫鎖太刀拵 鎌倉時代・13世紀
北条氏が伊豆三島大社に奉納したと伝えられる太刀。
刀身とともに展示
6月15日(火)～8月29日(日)展示

4 茶の美術
5月25日→8月8日

日本の伝統文化を代表する茶の湯の美術を紹介します。掛軸、花入、釜、水指、茶碗のほか茶の湯の食事に使われる懐石具など、夏にふさわしい作品を取り合わせて展示します。

必見!
彫三島茶碗 銘 木村 朝鮮時代・16～17世紀 広田松繁氏寄贈

3-3 禅と水墨画—鎌倉～室町
6月1日→7月11日

禅宗とともにもたらされた水墨画と墨跡。その影響を受けて製作された絵画と書の名品を展示します。この期間は、南北朝時代の臨濟宗の僧侶、石室善欽による「法語」(重文)など。

7月13日→8月22日

唐代の詩人李白の詩「望廬山瀑布」に基づく「李白観瀑図」は、室町時代の禅僧が数多く描いた人気の画題。その最古の遺品(重文 個人蔵)が登場します。

必見!
◎法語 石室善欽筆 南北朝時代・貞治2年(1363) 松永安左工門氏寄贈
6月1日(火)～7月11日(日)展示

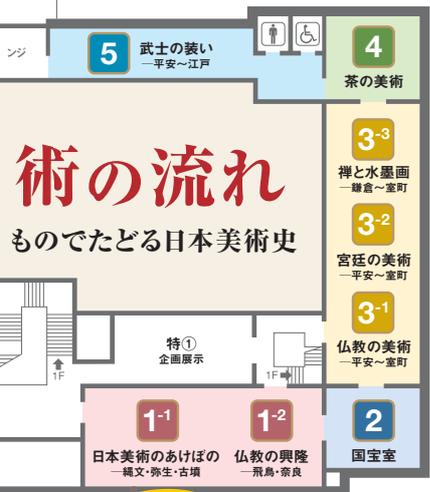
3-2 宮廷の美術—平安～室町
6月1日→7月11日

貴族による宮廷美術の世界を紹介します。この期間は、やまと絵で描かれた合戦絵巻の代表作のひとつ「前九年合戦絵巻」、和歌と書に優れていた伏見天皇の「広沢切」、後伏見天皇の「古歌巻切」など。

7月13日→8月22日

夏にちなんで、源頼光のおかけ退治を描いた「土蜘蛛草紙絵巻」の登場です。平安時代の美しい料紙を使った「古今和歌集巻第十一断簡(筋切)」や、貴族が用いた優美で繊細な文房具など。

必見!
◎土蜘蛛草紙絵巻 鎌倉時代・13世紀 英雄・頼光のおかけ蜘蛛退治のお話
7月13日(火)～8月22日(日)展示



術の流れ
ものでたどる日本美術史

START!

1-1 日本美術のあけぼの—縄文・弥生・古墳
11月14日まで

縄文から江戸時代まで、日本美術の流れをたどる旅のスタート。縄文時代の火焔土器や土偶、弥生時代の土器や銅鐸、古墳時代の埴輪や鏡など、それぞれの時代を代表する作品を展示します。

必見!
火焔土器
伝新潟県長岡市馬高出土
縄文時代(中期)・前3000～前2000年
焔のような装飾は、教科書で見たあの作品です!

1-2 仏教の興隆—飛鳥・奈良
6月1日→7月11日

6世紀半ば、百濟から仏教がもたらされ、日本の文化は大きく変化しました。ここでは、飛鳥時代から奈良時代にかけての仏像や経典など、古代の仏教美術を紹介します。

7月13日→8月22日

経典が展示替えされ、奈良時代、称徳天皇の発願で作られた百万基の木製小塔とその納入品『陀羅尼経』を展示します。

必見!
菩薩立像 飛鳥時代・7世紀
10月3日(日)まで展示

3-1 仏教の美術—平安～室町
6月1日→7月11日

日本的な仏教美術の美しさを極めた平安時代から、鎌倉時代を経て南北朝・室町時代までの仏教に関わる作品を紹介します。この期間は、絵画は曼荼羅、菩薩、明王、天など幅広い日本の仏画、および神道と融和した垂迹画など。書跡は密教経典を中心に、さらに優美な仏具も展示します。

7月13日→8月22日

平安時代につくられた狛犬の名品が登場。絵画はお盆にちなんで阿彌陀如来や十王、さらに天神さまや春日大社にわかる垂迹画を、書跡は後世に残すため埋納され、巻物や瓦、石などに刻まれたお経を展示します。

必見!
◎狛犬 平安時代・12世紀 広島・吉備津神社蔵
7月13日(火)～8月22日(日)展示

2 国宝室
6月1日→7月11日

衆生が善悪の行いによって輪廻するという地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人・天の6つの世界を描く「六道絵」。

7月13日→8月22日

和様の書を確立し、三蹟のひとりに数えられる藤原行成が唐の白居易の詩文集『白氏文集』から8篇を書写した「白氏詩巻」を展示します。

必見!
◎白氏詩巻 藤原行成筆 平安時代・寛仁2年(1018)
7月13日(火)～8月22日(日)展示

7 屏風と襖絵—安土桃山・江戸

5月18日→6月27日

屏風や襖絵といった大画面がつくる絵画空間をお楽しみください。この期間は、安土桃山時代を代表する絵師のひとり、海北友松による「琴棋書画図屏風」。

6月29日→8月8日

水墨による山水風景をとりあげます。多様な水墨技法と山水表現の広がりをご覧ください。整然とした画面構成により、温和で静謐な情景を表す雲谷等顔の「山水図屏風」を展示。等顔は毛利輝元に仕え、室町時代に活躍した雪舟の正当な継承者として名乗りをあげました。



必見!

◎山水図屏風(部分) 雲谷等顔筆
安土桃山～江戸時代・16～17世紀
岩山や泊り舟などに雪舟画のモチーフが見出されます
6月29日(火)～8月8日(日)展示

5 6 武士の装い —平安～江戸

6月13日まで

鎌倉時代から江戸時代までは武士が政治を行った時代です。武器や武具は、高度な工芸技術を駆使して制作されており、江戸時代には大名の格式を象徴する道具として大切にされました。ここでは、刀身とその外装・甲冑・馬具に加え、武士の装束ならびに肖像画や書状を展示します。この期間は、国宝の相州行光の短刀、重文の「黒韋肩袂取威胴丸」など。

6月15日→8月29日

重文の「三鱗紋兵庫鎖太刀拵」とその刀身、夏用の袴や陣羽織など。

8-1 暮らしの調度—安土桃山・江戸

5月11日→8月1日

四季を楽しむ暮らしは、日本の大事な伝統の一つです。安土桃山から江戸時代の人々も、時には季節に合わせた器や調度をいとおんだことでしょう。今回の展示は夏にちなみ、暑さを和らげ涼しさを連想させる、水辺の意匠の作品をとりいれました。また鉄線や石楠花、罌粟、紫陽花など初夏の草花を表わした品々を集めています。



必見!

◎八橋時絵螺鈿視箱
尾形光琳作 江戸時代・18世紀
群生するかきつばたは光琳が得意としたモチーフです
～6月13日(日)まで展示



必見!

◎波千鳥蒔絵提重
永田友治作
江戸時代・18世紀 西脇健治氏寄贈
作者は、光琳風のデザインで知られた蒔絵師
6月15日(火)～8月1日(日)展示



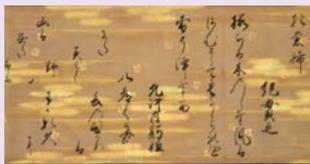
必見!

◎染付洗象図大皿
伊万里 江戸時代・19世紀 平野耕輔氏寄贈
中国の宮中では、墨い盛りの旧暦6月に象を洗う行事が行われました

8-2 書画の展開—安土桃山・江戸

5月18日→6月27日

江戸時代の多様な書画の系譜をご覧ください。この期間は、書は、安土桃山時代から江戸時代初めに宮廷で活躍した貴族たちの作品を展示。この時代、伝統的な書流を継承した持明院流に対し、近衛信尹に代表される個性的な書が登場しました。絵画は国宝「鷹見泉石像」など人物表現を中心にご覧いただけます。



◎三十六人歌合 持明院基時筆
江戸時代・17～18世紀
美しい料紙と流れるような筆致
5月18日(火)～6月27日(日)



必見!

◎鷹見泉石像(部分)
渡辺華山筆 江戸時代・天保8年(1837)
肖像画の傑作
5月18日(火)～6月27日(日)展示

6月29日→8月8日

書は江戸時代中期に活躍した学者・文人の書を中心に。漢学・漢文化に親しんだ彼らによる唐様の書の自由奔放とも思える筆致をお楽しみください。絵画は、涼しげな水辺の情景を表したのものや、夏を想い起こさせる作品をとりあげます。



必見!

◎夏秋草図屏風 酒井抱一筆 江戸時代・19世紀
突然にわか雨で、地面に水たまりができた一風景をみごとにとらえています
6月29日(火)～8月8日(日)展示



GOAL!



必見!

◎小袖 淡黄縮緬地
百合菫蒲公英模様
江戸時代・18世紀
友禅染で染められた上品な色合いの御殿風の散し模様
5月18日(火)～7月4日(日)展示

必見!

◎帷子 黒紅麻地扇面
雪輪手笠秋草模様
江戸時代・17世紀
左肩から左裾へと大きく弧を描くようにあらわされた大胆なデザイン
7月6日(火)～8月29日(日)展示



必見!

◎「名所江戸百景・高輪うしまち」
歌川広重筆 江戸時代・安政4年(1857)
西瓜の皮と空の虹。叙情性あふれる夏のひとコマ
6月29日(火)～7月25日(日)展示

9 能と歌舞伎

5月18日→7月4日

特集陳列「能面・能装束に見る能の表現—鬼の風姿—」

能のもっとも古い形態を表すとされる鬼の造形は、能の源流を感じさせます。天狗や動物の精霊、荒ぶる神々の姿を、能はどのように表現していたのでしょうか。鬼能に用いられる面と装束を通して、中世の人々が想像した鬼の風姿をご覧ください。



必見!

◎能面 猿飛出
金春座伝来
室町時代・16世紀
狐や魚といった動物の精霊役など異形を表現した造形
5月18日(火)～7月4日(日)

7月6日→8月29日

若い女性を主役とする鬘能のひとつ「江口」の面と唐織の装束を展示し、華麗な舞台を再現します。

必見!

◎唐織 胴縮地松帆模様 江戸時代・18世紀 上杉家伝来
普賢菩薩となって西の空へ消えゆく江口の君をイメージしつっ…
7月6日(火)～8月29日(日)



10 浮世絵と衣裳—江戸

【衣裳】5月18日→7月4日、7月6日→8月29日

江戸時代、きものデザインには流行の変遷があり、それぞれの時代を反映したファッションがありました。同じ部屋の向かい側に展示されている浮世絵に描かれた女性像と見比べながら、初夏の草花模様をデザインした衣装や真夏にふさわしい涼しげな帷子や単衣、櫛・簪といった髪飾り、印籠などをごらんいただけます。

【浮世絵】6月1日→6月27日

豪放な武者絵で知られた歌川国芳の「通俗水滸伝」、東海道の名所を背景にあだな美人を描いた深斎英泉の「美人東海道」、漫画のような自由な人物表現で知られる葛飾北斎の「新板大道図彙」、叙情の画家歌川広重の「江戸近郊八景之内」など、画家の個性を見比べてください。

【浮世絵】6月29日→7月25日

七夕や夕立、夏狂言の「鯉つかみ」など夏の季節にちなんだ作品を中心に、葛飾北斎の「諸国瀧廻り」など涼感ある作品を展示します。



本館第14室 工芸

人々の夢と願いをこめた陶の枕
特集陳列

「中国磁州窯の枕」

6月1日(火)～8月8日(日)

「磁州窯」とは、かつて「慈州」と呼ばれた中国河北省磁県を中心に、華北一帯にひろがった窯業地とその製品を総称した名前です。唐時代から現在に至るまで生産が続いています。私たちに親しみが深いのは、宋から金時代、十～十二世紀ころに作られたやきものでしょう。白い器への需要が高まり、素地に白い土を掛け、その上に透明釉をかける、いわゆる白化粧のやきものを中心に、活発な生産活動が行われました。



三彩蓮生貴子図枕 磁州窯 元時代・13～14世紀 横河民輔氏寄贈
「蓮生貴子」とは連続して子供を授かるという吉祥の意味。「蓮」に発音が同じ「蓮」を手にした子供が描かれています



白釉獅子枕 磁州窯 伝中国河北省鉅鹿出土 北宋時代・11～12世紀
横河民輔氏寄贈
この枕が出土した鉅鹿は宋時代に洪水で埋没した町の遺跡。20世紀の初頭に発見され、磁州窯研究の端緒がひらけました

中国では宋時代以降、人々の生活を支える実用の器として、陶磁器が求められるようになりました。磁州窯の魅力も、やはり実用の器であったことです。枕は、その磁州窯の代表的な器種といえます。さまざまな種類とその形や装飾には、生きることへの夢や願いが込められています。それらを求め作り出した当時の人々の生活の豊かさに心を打たれます。(三笠景子)

本館12室 彫刻

慶派仏師の個性がよくわかる
特集陳列

「二体の大日如来像と慶派の彫刻」

7月6日(火)～9月12日(日)

運慶の作とみられる大日如来坐像二体を同時に展示するのは今年で三回目、恒例になりました。例年通り、運慶と同系統の慶派と呼ばれる仏師の作品もあわせて展示します。さらに今回は、12室の特集陳列だけでなく、11室にも慶派の名品を展示します(以下展示室番号を①②で示します)。

運慶と並び称される快慶の仏像は、端正な顔とほぼ左右対称に整理された衣文が特徴です。快慶工房作の菩薩面二面(兵庫・浄土寺⑫)の顔、快慶の作風に近い阿弥陀如来立像のすっきりした美しさ、運慶風の阿弥陀如来坐像(静岡・願生寺)を比べてみてください。運慶・快慶と同時期に活躍した慶派仏師作の十二神将立像五体(辰・巳・未・戌神⑬、申神⑭(写真左)、運慶の孫、康円作の文殊菩薩(写真右)および侍者像⑮、四天王眷属像⑯など、今回の展示を見れば慶派仏師に共通する写実的な作風と各仏師の個性を知ることができます。(浅見龍介)



◎十二神将立像 申神
伝浄瑠璃寺伝来 鎌倉時代・13世紀
ガードマンにはひょうきんな猿顔です



◎南方天眷属立像 康円作
鎌倉時代・文永4年(1267)
肌は浅黒く、口をすぼめ、脊は穴があいて足先が出ています



◎文殊菩薩像(文殊菩薩および侍者像のうち) 康円作 興福寺伝来
鎌倉時代・文永10年(1273)
子供の姿、厳しい表情によって、知恵の文殊の聡明さを表わします

ナダールによる遣欧使節団の記録 シリーズ「歴史を伝える」

特集陳列

「古写真—人物を写す—」

7月13日(火)～8月1日(日)

幕末には江戸幕府による大小さまざまな遣欧使節団が合わせて八回ほど欧米に派遣されています。第一回の幕府使節団は、万延元年(一八六〇)一月、日米修好通商条約批准交換のため渡米した新見豊前守正興一行(総数七十七名)。第二回が竹内保徳の一行(総数三十六名、のち二名が加わる)で、文久元年(二八六二)十二月渡欧しました。第三回は、文久三年(二八六三)十二月、横浜鎖港談判の

ため渡仏した池田筑後守長発の一行(総数三十四名)です。今回の特集陳列では、第二回の遣欧使節の一行を写した写真を中心に紹介します。カメラマンは、フランスの写真家、ナダール(本名ガスパール・リュフェリックス・トゥールナシオン、一八二〇年四月六日～一九一〇年三月二十一日)。数多くの文化人や重要人物を撮影し肖像写真家として名を馳せました。

(富坂賢)



左より、松平康直(副使)、竹内保徳(正使)、京極高明(自付)、柴田貞太郎(編頭)。パリの旅宿ロテル・デュルブルで撮影

そのとき彼らは何を見たのか?
特集陳列

「清朝末期の光景

—小川一眞・早崎稜吉・関野貞が撮影した中国写真—

5月25日(火)～7月4日(日)

明治三十四年(一九〇二)義和団の乱(北清事変)が終結し、光緒帝と慈禧皇太后(西太后)が西安に逃れているころ、東京帝国大学は紫禁城の建築や装飾の研究を目的に、伊東忠太らを北京に派遣して調査を行いました。この調査に同行した写真師小川一眞が撮影した『北京城写真』は、北京城の情景を切り取ることで、時代の波に

抗うすべなく清朝が瓦解して行く歴史の流れを見事に写し取っています。この特集陳列では紫禁城を中心に、早崎稜吉と関野貞が中国各地を調査し撮影した、龍門石窟や函谷関などの写真をご紹介します。およそ百年前の日本人がとらえた、現在ではすでに失われてしまったさまざまな清朝末期の光景をお楽しみください。(関紀子)

古代エジプトの死後の世界観 特集陳列

「古代エジプトのミイラ」

7月13日(火)～9月20日(月・祝)

明治三十七年(一九〇四)に、エジプト考古庁から寄贈された、パシエリエンブタハのミイラを中心に、古代エジプトの「死」に関する作品を展示します。ミイラは、東洋館で常時公開していましたが、現在東洋館は耐震補強工事で休館のため、場所を変えてしばらくぶりの公開です。ミイラが納められた棺の表面には、真っ黒な液体がかけられていますが、赤外線撮影によつて、その下に元々描かれていた画像が明らかになっています。

ほかに、彩色の施された木彫の一群、船に乗る人、仕事をする人などのミニチュアも展示します。これらの人々のはあの世で死者のために働くものと信じられていました。パティーンヘルのミイラを包んでいた布は当館の近年の収蔵品、またパピルスに書かれたタネフェルトの『死者の書』や、死者の姿を美しく描いた肖像画など、他館からのご協力による作品もあわせてご覧いただきます。(後藤健)



パシエリエンブタハのミイラ
エジプト第22王朝・前935～前730年頃 エジプト テーベ出土 G・マスベロ氏寄贈
死者の名は「アंकムウトの息子パシエリエンブタハ」。赤外線撮影により、棺の表面に描かれた聖刻文字(ヒエログリフ)の銘文が読み解かれ、明らかになりました



太和殿前庭/殿扉 小川一眞撮影 明治34年(1902)
太和殿は国家の重要な式典を行う紫禁城の外朝の正殿。荒廃ぶりが清朝の終焉を予感させます



本館11室 彫刻

水晶が魅せる、美しき唇

重文 菩薩立像

7月6日(火)～9月12日(日)

すらつと伸びた細身のからだ、すこし左に腰をひねって立つ姿、金色の肌と鮮やかな色の衣が美しい像です。冠、胸飾り、瓔珞など銅製の装身具も鎌倉時代らしい厚みのあるみごとな工芸品です。この像とよく似た姿形の像は、弥勒菩薩として奈良にくつか残っています。確証はありませんが、この像も弥勒菩薩でしょう。弥勒菩薩は、釈迦の死後五十六億七千万年のうちにこの世に現れて人々を救うと経典に記されています。立つて、右足を踏み出すこの像は、兜率天からこの世に現れる場面を表わしたものでしょう。台座は後世補われたものですが、本来は蓮台の下に雲があつたはずで。

(浅見龍介)

◎菩薩立像 鎌倉時代、13世紀
唇に注目、朱色に塗った上に水晶の板を貼っています。紅をひいたように見えます。



本館13室 陶磁

重厚な作風 木米の代表作

重文 染付龍濤文提重

6月15日(火)～9月12日(日)



◎染付龍濤文提重 青木木米作 江戸時代、19世紀
笠置達氏寄贈
木米は中国陶磁をよく研究し、単なる模倣の域を超えて、自らの表現をしています。

同形の龍濤文の反復からなる文様構成、落ち着いた発色の染付による重厚な作風は、中国明時代後期の万暦年間(一五七三～一六二〇)の染付に倣っています。釉や胎土の質が悪いことから、稜の部分に生じる虫喰いとよばれる釉薬の剝落を、意図的に写しています。器形には青木木米(一七六七～一八三三)の創意が加えられています。中国では精緻で優美な明時代前期の染付が理想とされ、その再現や模倣がさかんに行われましたが、木米は万暦期の染付がもつ鷹揚な気分共感していたようです。

(今井敦)

本館18室 近代美術

何度見ても庄巻のスケール

雲中富士 横山大観筆

5月18日(火)～6月27日(日)



雲中富士 横山大観筆 大正2年(1913)頃
右隻には雲海のほか何も描かれず、左隻で雲の上を顔を見せる富士の高さを引き立てています

「あたまを雲の上に出し、四方の山を見おろして、かみなりさまを下に聞く、富士は日本一の山」
有名な文部省唱歌「富士山」を連想させるこの作品では、一面に広がる雲海の中から、抜けるように青い富士が顔をのぞかせています。この唱歌が発表されたのは、明治四十四年(一九一〇)のこと。最近の調査で、この作品は大正二年(一九一三)頃に制作され、原三溪という日本近代の大コレクターが千五百円(当時の金額)で購入したことが記録からわかりました。つまり、この作品は文部省唱歌「富士山」が作られたのと同じ時期、同じような時代背景のなかで制作された作品といえるのです。

(植田彩芳子)

表慶館 第1室 中国考古

香り高い酒の器

盃

通年展示



盃 戦国時代、前5～前4世紀
古代中国では神々にお酒を供える青銅器が発達しました

丸々と量感たっぷりの器体に三本足、注ぎ口、持ち手と蓋が付きます。まるでヤカンのような形ですが、注いだのはお湯ではなく、香り豊かな熱いお酒でした。クロキビの醸造酒に香草の煮汁を混ぜて香りを調えるのが、盃というこの種の青銅器の役割でした。この盃でお酒を注ぐ時には、怪鳥をかたどった注ぎ口の上の嘴が開きました。ここ表慶館アジアギャラリーだけでなく、特別展「誕生！中国文明」の会場にもお酒をいれる鳥形の青銅器が陳列されます。両会場で趣向を凝らした酒器の造型を見比べてみませんか。

(川村佳男)

表慶館 第2室 中国陶磁

豊かな量感、大胆な筆致

黒釉褐彩牡丹文瓶

7月25日(日)まで



黒釉褐彩牡丹文瓶 金元時代、13～14世紀
広田松繁氏寄贈
大胆な筆つかいと張りのある器形との調和が見どころです

この種の黒釉陶器を俗に「河南天目」といいます。河南省地方で生産されたと考えられたことによる呼び名ですが、実際には華北地方に広く分布する民窯で焼かれています。つややかな黒釉の地に赤褐色の文様をあらわす黒釉褐彩は、河南天目の代表的な装飾技法です。黒釉は成分に多量の鉄分を含みますが、さらに鉄絵具で文様を表し釉中の鉄分が過飽和の状態になると、釉の表面に柿色の皮膜が生じる性質を利用したものです。このように高さ四〇センチを超える大型の器形に力強い文様が描かれた例は他に知られていません。

(今井敦)

特集
陳列

平成21年度 新収品

5月18日(火)～6月13日(日)
本館特別1・2室

平成21年度は購入によるもの8件、ご寄贈いただいたもの43件、計51件の作品が新たに当館の収蔵品となりました。これらの作品の中から48件を展示いたします。今回は、なかでも主な作品についてご紹介します。

純本と黒が織りなす光の表現 山水図屏風 呉春筆



山水図屏風 呉春筆 江戸時代・18世紀
左右一對の屏風ですが、どちらか一方でも鑑賞できる
独立性の強い画面構成も特徴です

呉春は与謝蕪村に俳諧と絵画を学び、蕪村没後は円山応挙の画風を慕い、後に京都画壇を代表する四条派を確立した画家です。

この屏風は、呉春が現在の大阪府池田市に在住し、蕪村から学び得たことを咀嚼しつつ自らの画風を確立していることとする時期(池田時代)に描いたものと考えられます。

両隻には山間を農夫と高士が歩み行く風景が、細く柔らかな線とリズム、ミカルな墨点、淡い色彩によって描かれています。

注目されるのは、滑らかに光沢のある絨という高価な絹に描かれている点です。蕪村も好んだ純の質感を活かし、柔らかな光に包まれた秋の情景を見事に描き出したこの作品は、呉春の代表作ともいえるものです。純本と墨が織りなす光の世界をご堪能ください。(大橋美織)

実妹に伝えた気品ある作品 舟、芍薬 黒田清輝筆



舟 黒田清輝筆 明治時代・19世紀
赤松雅子氏寄贈

当館では二〇〇九年度に黒田清輝の筆になる日清戦争従軍時の作品三点と油彩画二点の寄贈を受けました。二点の油彩画は黒田が逝去した翌年刊行された『黒田清輝作品全集』(和田英作編 審美書院)に黒田清輝の実妹峯子(み弥)氏の所

蔵品として「舟」「芍薬」の名で、図版とともに掲載されたもので、旧蔵者のご遺族からご寄贈いただきました。

「舟」は、黒田がフランス留学中に好んで訪れた農村グレー「シユル」ロアンで描かれた諸作に似た作風を示しています。「芍薬」は、ユリなど、特定の花を好んで描き、一九〇〇年以降は、菊やツツジなど和花を多くモチーフとするようになる黒田の傾向を示しています。(山梨絵美子)



芍薬 黒田清輝筆 明治37年(1904)
北村藍子氏寄贈

幕府御用絵師の活動を伝える 板谷家伝来資料

安永二年(一七七三)に住吉広守(一七〇五～七七)の弟子・板谷慶舟(一七二九～九七)を初代として始まった板谷家は、やまと絵画風をよくし、住吉家とともに御用絵師として活躍した家系です。

昨年度末、八代目にあたる板谷廣起氏より、板谷家に伝来した下絵、粉本、古文書などの貴重資料が一括して当館へ寄贈されました。本資料には、伺下絵(これだけでよいか伺いをたてるための下絵や古絵巻の模写のみならず、板谷家の履歴、狩野派や中国絵画の模写、写生帖など、やまと絵系御用絵師の幅広い活動を語る資料が数多く含まれています)。

今回はそのなかから、広延(一八五九)の奥御用日記や、將軍家茂の御供として先行して上洛した広春(一八八二)が描いた東海道・中仙道の地取(スケッチ)など、いくつかを抜粋して紹介します。(瀬谷愛)



東海道地取(板谷家伝来資料のうち) 江戸時代・文久3年(1863) 板谷廣起氏寄贈
広春は上洛の道中、東海道の風景を絵日記に残し(上)、さらに清書しています(下)

研えた刃文に俱利迦羅龍 重美 太刀 銘 備州長船住景光 延慶二年七月日



○太刀 銘 備州長船住景光 延慶二年七月日
長船景光作 鎌倉時代・延慶2年(1309) 宮腰
巴夫氏寄贈
精緻な鍛えは景光の大きなみどころです

鎌倉時代の備前国(岡山県)では長船派が興り、同派は日本最大の刀剣の流派として隆盛しました。なかでも、景光は長船派を代表する刀工のひとり、鎌倉時代末期に活躍しました。この太刀は景光としては初期の作品です。姿はほぼ制作当初のまま、反りの曲線美が印象的です。「鍛え」と呼ばれる地鉄の肌模様は極めて細やかで、

地鉄には「映り」という影のような模様が鮮明にあらわれています。刃文は直刃(直線の刃文)で、その線は引き締まって明るく研え、鋭い印象を与えます。腰元には、表に俱利迦羅龍、裏には梵字の刀身彫刻がみられます。鍛え、刃文、刀身彫刻、いずれの面にも景光の特徴がよくあらわれており、同工のなかでも優品と言えるでしょう。(酒井元樹)

PART
1

知る楽しみ、学ぶ喜び 講座・講演会・解説

講演会

「^{まきえ}蒔絵の歴史と八橋^{やつはし}蒔絵螺鈿^{らでんすずりばこ}硯箱」

八橋蒔絵螺鈿硯箱に見る美しい技に一步近づくと講演です。

日時：6月5日(土) 13:30～15:00

会場：平成館大講堂

定員：380名(先着順) 聴講無料(ただし、当日の入館料は必要)

講師：竹内奈美子(工芸・考古室長)

「友禅 技法の歴史」

親子のギャラリー「日本美術のつくり方2」友禅染に関連した講演です。

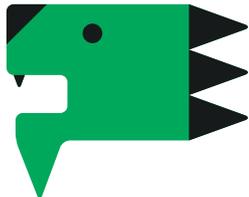
日時：7月24日(土) 13:30～15:00

会場：平成館大講堂

定員：380名(先着順) 聴講無料(ただし、当日の入館料は必要)

講師：藤井健三(西陣織物館顧問)

教育普及
事業!!



みどりのライオン
みんなで楽しむ教育スペース
EDUCATION CENTER 教学中心 교육센터

教育イベント

「夕すずみ能」

本館9室の特集陳列「能「江口」の面・装束」(7月6日～8月29日)に関連して、能の公演を行います。

曲目：「江口」

出演：金春流シテ方・本田光洋師ほか

日時：8月27日(金) 17:30～19:30

会場：平成館大講堂

定員：380名(事前申込制) 無料(ただし当日の入館料は必要です)

申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記して下記までお申込ください。

申込先：〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育講座室教育イベント係

*1枚の往復はがきで最大2名まで応募可。2名の場合はそれぞれの氏名を必ず明記のこと。応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

申込締切：8月6日(金)必着

列品解説

東京国立博物館の研究者による展示解説です。

「^{いなぼどうやくしえんぎえまき}因幡堂薬師縁起絵巻をみる」

日時：6月1日(火) 14:00～14:30

会場：本館3室

講師：瀬谷愛(平常展調整室研究員)

因幡堂(京都・平等寺)と本尊薬師如来

の絵巻をみながら、その伝来と原形についてお話しします。



「^{たかみせんせき}鷹見泉石像」(7ページ参照)

日時：6月8日(火) 14:00～14:30

会場：本館8室

講師：遠藤栄子(国際交流室研究員)

当館所蔵の肖像画の名品「鷹見泉石像」(国宝)を主題に、渡辺華山の絵画表現などについてお話しします。

「日本を歩く」

日時：6月15日(火) 14:00～14:30

会場：本館16室および20室(16室集合)

講師：富坂賢(書跡・歴史室長)

東海道五十三次図屏風と五海道分間延絵図の絵解きをします。

「^{しんげん}清朝末期の光景—小川一真・早崎種吉・関野貞が撮影した中国写真—」(9ページ参照)

日時：6月29日(火) 14:00～14:30

会場：平成館企画展示室

講師：関紀子(絵画・彫刻室研究員)

清朝末期に日本人が撮影した中国の写真についてお話しします。

「^{うがじん}頭上に宇賀神を表わす弁才天像」

日時：7月6日(火) 14:00～14:30

会場：本館11室

講師：浅見龍介(東洋室長)

インド神話の女神に由来する弁才天の頭の上に日本古来の神である宇賀神を表わした鎌倉時代の弁才天像について解説します。

「ミイラについて」(9ページ参照)

日時：7月13日(火) 14:00～14:30

会場：平成館企画展示室

講師：後藤健(上席研究員)

明治37年(1904)に、エジプト考古庁から寄贈されたミイラを中心に、古代エジプトの「死」についてお話しします。

「^{りほくかんぼくす}重文 李白観瀑図」

日時：7月23日(金) 18:30～19:00

会場：本館20室

講師：救仁郷秀明(保存修復室長)

室町時代に流行した李白観瀑図の現存最古の作品について、その主題や図様を解説します。

「^{じしゅうよう}磁州窯の枕」(8ページ参照)

日時：7月27日(火) 14:00～14:30

会場：本館14室

講師：三笠景子(保存修復室研究員)

磁州窯とは、中国宋時代を中心に、北方で隆盛した民窯とその製品の総称です。魅力的な陶製の枕についてお話しします。



*申込みに際していただいた個人情報につきましては、該当事業にのみ使用し、終了後は速やかに破棄します。

PART
2

つくり方を知れば、見方がかわる!
親と子のギャラリー

日本美術のつくり方 2

この作品、いったいどうやってつくったんだろう? 材料は何でできているの? 日本の伝統的な美術作品を見ていて、疑問に思うことはありませんか?

夏休み恒例の「親と子のギャラリー」シリーズ。今年の第一弾は、昨年に引き続き、伝統的な日本美術の技法4つについてご紹介します。つくり方を知れば、もっと美術と仲良くなれるはず。子供から大人まで楽しんでいただける展示です。

日時: 6月15日(火)~7月25日(日)

会場: 本館2階 特別2室

キラキラきれいな模様をつけ方—料紙装飾—

書跡作品の中には、書いてあることは難しく読めないけれど、紙に刷られた模様と文字のコンビネーションがとても美しいものがあります。このように飾られた料紙と呼ばれる紙は、どのようにつくられるのでしょうか。金銀の切箔や砂子などの技法についてご紹介します。



©法華經(久能寺経)安楽行品
平安時代・12世紀

糊と絵具で描いていくよ—友禅染—

着物に模様を染める技法のひとつである友禅は、筆で色を挿したりぼかしたりして、絵画のような細かい模様を染められるのが特徴です。模様の輪郭線となる色と色の境目を、色がにじまないようにあらかじめ糊を塗り、色をつけた後で糊を落とすと、そこが白く細い線として残ります。繊細で華やかな友禅染がつくられる過程を、工程見本でご覧ください。



小袖
白縮緬地衝立鷹模様
江戸時代・18世紀

木を貼り合せて作る仏さま 眼が光るのはなぜ?
—寄木造と玉眼—

日本の仏像のほとんどは木で造られています。その造り方には「一木造」と「寄木造」があります。そのうちのひとつ、寄木造ってどんなものでしょう。どうしてそんなつくり方が工夫されたんだろう。そんな疑問に答えます。それから仏像の目が光って見えるものがあるのは知っていますか? どうやってつくるのかな。



仏像の断面を見れば、眼が光る仕組みもよくわかる! なぜ光るのか、その秘密は会場で確かめてください

彫り方ひとつで線もいろいろ
—線彫・鋤彫・透彫—

金属に細い線で文様が描かれている作品があります。硬い金属に、どうやって細かい線を彫る(刻む)か知っていますか? 実は、毛彫、蹴彫などと呼ばれるいろいろな彫り(刻み)方があるんです。鋤彫、透彫など、その他の技法とあわせてご紹介します。



金銅迦陵頻伽文華鬘
山脇洋二模造 昭和時代・20世紀
原品=平安時代・12世紀

つくってみよう日本美術!

参加型のワークショップを開催します。絹地に、筆や刷毛を使って実際に色を挿し、着物のような華やかな模様をつくり出してみませんか?

①ファミリーワークショップ「友禅染に挑戦!」

日時: 7月17日(土) 10:00~12:30

会場: 平成館小講堂

対象: 小学校5年生以上の児童・生徒とご家族

定員: 10組(応募者多数の場合は抽選)

②大人向けワークショップ「友禅染:色挿し体験」

日時: 7月17日(土) 14:30~17:00

会場: 平成館小講堂

対象: 一般(高校生以上)

定員: 20名(応募者多数の場合は抽選。1回のお申し込みで2名まで申込可)

参加費: ①②ともに無料(ただし当日の入館料が必要)

申込方法: 往復はがき・FAX・電子メールのいずれかに ①参加者全員の氏名・ふりがな(と①の場合はお子さんの学年) ②郵便番号・住所 ③電話番号・FAX番号を明記の上、下記へお送りください。

申込先: 〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館 博物館教育課 ①「ファミリー友禅」②「大人友禅」係

FAX: 03-3822-3010 電子メール: edu@tnm.jp (件名に①「ファミリー友禅」②「大人友禅」とご記入ください)

締切: ①②ともに7月2日(金)必着

*当落に関らず連絡いたします。実施日の3日前までに受講可否の連絡がない場合は、通信トラブルの可能性もありますので、教育普及室に電話(03-3822-1111〈代〉)でお問い合わせください。

INFORMATION

イベント開催のお知らせ

◆チェロとハープのコンサート

珠玉のチェロ、国際舞台で活躍するハープとの共演

日時:6月20日(日) 開場14:30 開演15:00 会場:平成館ラウンジ
 出演:唐津健(チェロ)、シュレイファー弓子(ハープ)
 曲目:バッハ:無伴奏チェロ組曲 第一番より(チェロソロ)/サン=サーンス:白鳥
 /エルガー:愛の挨拶/ルニエ:いたずら子鬼の踊り(ハープソロ)/ブルック
 フ:コル・ニドライ/ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ/ベッリーニ:
 ノクターン Op.12/ダマーズ:シシリエンヌ・パリエ(ハープソロ)
 *ソロ以外はデュオとなります
 料金:一般 4,500円 友の会・キャンパスメンバーズ割引 3,500円 全席自由
 *当日は、コンサートチケットで、平常展をご観覧いただけます。
 主催:東京国立博物館、サロン・ド・ソネット

◆納涼東博寄席

日時:7月11日(日) 開場13:00 開演13:30 会場:平成館大講堂
 出演:金原亭馬生、金原亭馬治、金原亭馬吉、太田その
 料金:2,000円 全席自由 *当日は、公演のチケットで、平常展をご観覧いただけます。
 主催:東京国立博物館

チケットのお求め方法

●当館正門観覧券売場でのチケット販売

受付時間:開館日の9:30~閉館の30分前まで

●電話予約販売

申込先:東京国立博物館総務課イベント担当 TEL 03-3821-9270
 受付時間:月曜日~金曜日 9:30~17:00(土日祝休日は除く)
 引換方法:各イベント当日、9:30~当館正門観覧券売場にて現金引換にてお渡し
 します。
 *各イベントの詳細は、当館ホームページでご確認ください。
 *お車でのご来館はご遠慮ください。

◆親子で楽しむコンサート~長唄 三味線三味~

杵屋五三吉社中とともに贈りする、
 初めて長唄を聴くみなさんのためのスペシャルコンサート
 日時:7月4日(日) ①開場10:30 開演11:00 ②開場13:30 開演14:00
 *①、②ともに公演内容は同じです。

会場:平成館大講堂
 出演:杵屋五三吉ほか
 料金:大人 2,300円(前売2,000円) 小中学生・園児 1,300円(前売1,000円)
 幼児 無料(ひざに乗せてご鑑賞ください) 全席自由
 *当日は、コンサートチケットで、平常展をご観覧いただけます。

主催:音楽の花束 共催:東京国立博物館
 チケットのお問い合わせ/お申込み:電子メール ongakuno.hanataba@gmail.com
 TEL 090-5571-3379(音楽の花束、後藤)

◆「第7回 台東区の伝統工芸職人展」のお知らせ

毎年好評の「台東区の伝統工芸職人展」。東京国立博物館のある台東区は、江戸文化が栄えてきた町として知られています。今年も、平成館にて伝統工芸のさまざまな分野の職人が製作実演を行います。下町の歴史と風土の中で生まれ受け継がれてきた、職人の本物の技と手作りのぬくもりをご覧ください。

日時:7月27日(火)~8月1日(日) 9:30~17:00
 会場:平成館ラウンジ
 主催:台東区 共催:東京国立博物館
 協力:台東区伝統工芸振興会、台東伝統文化振興会
 お問い合わせ:台東区文化産業観光部 産業振興課 TEL 03-5246-1131
 *平常展料金でご覧いただけます。

◆資料館からのお知らせ

資料館閲覧室では、写真カードなどの配置替えによって図書と雑誌の書架が増え、視聴覚コーナーの機器も新しくなりました。また、セルフコピー機を導入し、コピー料金は1枚30円に値下げしました。

資料館の開館時間:月曜日~金曜日 9:30~17:00
 *詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

◆休館のお知らせ

6月22日(火)は、電気設備等保守点検のため、臨時休館いたします。

◆ミュージアムグッズプレゼント

本誌5ページで紹介した、重文「夏秋草園屏風」(本館8室 6月29日(火)~8月8日(日))をモチーフしたミュージアムグッズを、抽選で10名様にプレゼントします。締切は7月18日(日)必着。

*プレゼントの応募方法

はがきに住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、職業、ならびにこの号でいちばん面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館 広報室「ニュース6・7月号」プレゼント係



◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館の活動を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効。賛助会員には、特別会員と維持会員との2種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上
 維持会員 法人 20万円
 個人 5万円

主な特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付

*賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。

*お問い合わせ
 東京国立博物館総務部 賛助会担当
 TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2010年4月18日現在

特別会員

日本電設工業株式会社様 株式会社ミロク情報サービス様
 株式会社コア様 読売新聞社様
 株式会社精養軒様 三菱商事株式会社様
 大日本印刷株式会社様 凸版印刷株式会社様
 株式会社毎日新聞社様 ブルガリジャパン株式会社様
 株式会社大林組東京本社様 東芝国際交流財団様
 朝日新聞社様 日本写真印刷株式会社様
 株式会社ホールオーケストラライブ様 日本ロレックス株式会社様

維持会員 団体

東京電力株式会社様 株式会社 スタイルフェドット・ネット様
 TBS様 株式会社 古美術数本様 インフォコム株式会社様
 株式会社三冷社様 日本ハーデス株式会社様 学校法人 大勝院学園様
 株式会社東京美術様 謹慎書道会様 公和図書株式会社様
 株式会社鶴屋吉信様 社団法人 全国学校栄養士協議会様 株式会社 小西美術工藝社様
 株式会社安井建築設計事務所様 近代書道研究所様 有限会社 ギャラリー竹柳堂様
 株式会社 ナガホリ様 日本畜産興業株式会社様 株式会社 育伸社様
 松本建設株式会社様 株式会社 東京書芸館様

維持会員

木村 則子様	観世 あすか様	栄田 陸子様	野崎 弘様	高見 康雄様	高久 真佐子様
早乙女 節子様	星埜 由尚様	網村 安代様	坂田 浩一様	田中 望様	小川 春夫様
宇津野 和俊様	久保 順子様	高橋 良守様	池谷 正夫様	三井 速雄様	平山 利恵様
伊藤 信彦様	渡辺 章様	岡田 博子様	池谷 徳雄様	坂詰 貴司様	陶山 哲夫様
井上 萬里子様	稲垣 哲行様	臼井 生三様	脇 素一郎様	吉田 靖様	井出 雪絵様
藪内 匡人様	帖佐 誠様	津久井 秀郎様	秦 芳彦様	松本 雅彦様	佐藤 稔一様
服部 禮次郎様	飯岡 雄一様	川澄 祐勝様	杉原 健様	明本 素也様	岡本 博司様
岩沢 重美様	峯村 協成様	神通 豊様	木谷 麒二郎様	伊藤 喜雄様	岡本 恭子様
高田 朝子様	牧 美也子様	永久 幸範様	高梨 兵左衛門様	井上 雄吉様	谷川 紀彦様
齋藤 京子様	高瀬 正樹様	五十嵐 良和様	渡久地 ツル子様	大森 雅子様	山口 隆司様
齋藤 邦裕様	坂井 俊彦様	石川 公子様	汐崎 浩正様	鈴木 宗鶴様	原 一之様
和田 喜美子様	寺浦 信之様	池田 慶子様	堤 勝代様	折越 卓哉様	会田 健一様
佐々木 芳絵様	高木 美華子様	青山 千代様	平井 千恵子様	渡辺 恭昌様	桐畑 政義様
藤原 紀男様	古屋 光夫様	高谷 光宏様	平野 孝子様	細川 要子様	熊良 多恵子様
中川 俊光様	根田 穂美子様	青山 道夫様	細川 要子様	錦織 伸一様	能谷 勝昌様
関谷 徳衛様	松本 澄子様	高橋 静雄様	鈴木 幸一様	鈴木 幸一様	眞中 富士男様
高橋 守様	鷲塚 泰光様	田中 千秋様	武藤 剛志様	鈴木 徹様	鈴木 美幸様
小澤 桂一様	是常 博様	小西 暁也様	秋元 文子様	櫻井 恵様	山田 輝明様
上久保 のり子様	高木 聖鶴様	澁谷 洋志様	土師 昭三様	加藤 孝明様	
榎田 良豊様	竹下 佳宏様	清川 勉様	鏡 賢志様		
長谷川 英樹様	松原 聡様	山下 昭夫様			
池田 孝一様	野澤 智子様	仙石 哲朗様			
木村 剛様	吉田 幸弘様	中井 伸行様			

(ほか41名2社、順不同)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効
 特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般4,000円 学生 2,500円
 発行日から1年間有効
 特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます
 *建物の改修等のため、京都国立博物館平常展示館、東京国立博物館東洋館など一部展示館を閉館しています。

◆お申し込みは当館窓口、郵便振替または当館ホームページで
 〈郵便振替でのお申し込み〉
 *振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・職業・年齢・性別・メールアドレスを楷書でご記入ください
 *振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートが届くまで保管しておいてください
 *振替手数料はお客様の負担となります
 *ご入金確認日より会員証、パスポートがお手元に届くまで2週間程かかります

友の会
 加入者名(振替先)東京国立博物館友の会
 口座番号00160-6-406616

パスポート
 加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート
 口座番号00140-1-668060
 *振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は、生徒手帳か学生証のコピーを郵送またはFAXでお送りください

◆お問合せ
 TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当
 FAX 03-3821-9680

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内
 本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で
 加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース
 口座番号 00100-2-388101
 *振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください
 *振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください
 *振替手数料はお客様のご負担となります
 *次号より送付ご希望の場合、締切は2010年7月10日です

東京国立博物館メールマガジンのご案内
 特別展・各種催し・展示替・ウェブ更新などの情報をいち早くお届けします *ご登録はhttp://www.tnm.jp/から

東京国立博物館利用案内
開館時間 9:30~17:00
 2010年12月までの特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、2010年4月~9月の土日祝休日、および10月~12月の特別展開催期間中の土日祝休日は18:00まで開館(入館は閉館の30分前まで)。
休館日 原則として月曜日(祝日・休日にあたる場合は開館、翌火曜日休館)、年末年始(12月27日(月)~2011年1月1日(土))、2010年6月22日(火)は臨時休館
 2010年5月4日(火・祝)、8月16日(月)、11月8日(月)、11月15日(月)は開館

平常展観覧料金
 一般600(500)円、大学生400(300)円
 *()内は20名以上の団体料金
 *障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
 *満70歳以上、高校生以下および18歳未満の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

*お申し込み際にご提供いただいた個人情報は、当該の目的のみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします

[16ページのカレンダー内 *1~*8]

- *1 詳細は本誌12ページをご覧ください
- *2 6/19、7/17は手話通訳付きです
- *3 有料イベントです。詳細は本誌14ページまたは当館ホームページをご覧ください
- *4 「親と子のギャラリー」関連事業、事前申込制。詳細は本誌13ページをご覧ください
- *5 特別展「誕生!中国文明」関連事業、事前申込制、詳細は本誌3ページまたは当館ホームページをご覧ください

◆海外展「日本の美5000年」
 5月5日(水祝)~6月28日(月)
 トルコ・トプカプ宮殿博物館
 今年は「トルコにおける日本年」にあたり、これに伴い、さまざまな企画が準備されていますが、その中のメインイベントとして文化庁と協同で開催されるのが本展です。縄文時代から江戸時代までの約五千年にわたる日本美術の精華を当館の所蔵品を中心に紹介する内容です。言うなれば、本館で展開されている「日本美術の流れ」のダイジェスト版ですが、新潟県十日町市博物館や宮内庁三の丸尚蔵館の協力を得て行われるトルコではじめての本格的な日本美術展です。
 (井上洋二)

◆東博バスが東京の街を走ります!
 東京国立博物館では、光琳の風神雷神や北斎の富嶽三十六景をデザインしたラッピングバス(都営バス)を制作いたしました。日本美術の名品が大胆に配されたバスが、今年から1年間、東京の街を走ります(南千住営業所、臨海営業所の系統で走行予定)。
 このバスをきっかけに、多くの方に日本美術の名品に親しんでいただき、そしてなにより多くのお客様が東京国立博物館に訪れてくださることを願っています。



青戸営業所、臨海営業所の系統で走行予定)。
 このバスをきっかけに、多くの方に日本美術の名品に親しんでいただき、そしてなにより多くのお客様が東京国立博物館に訪れてくださることを願っています。

◆TNM&TOPPANミュージアム シアター上映作品のお知らせ
 VR作品「興福寺 阿修羅像」公開
 6月27日(日)までの金・土・日・祝 10時、11時、12時、14時、15時、16時上演 各回30名
 VR作品 「興福寺 阿修羅像 ~奇跡の仏像~」より *当日予約制 本館エントランスにて受付 *7月からは「唐招提寺(仮題)」を上演します。詳細が決まり次第当館ホームページでお知らせします



VR作品 「興福寺 阿修羅像 ~奇跡の仏像~」より *当日予約制 本館エントランスにて受付 *7月からは「唐招提寺(仮題)」を上演します。詳細が決まり次第当館ホームページでお知らせします

◆MUSEUM 625号 (2010年4月15日発行の掲載論文 検討) 造立典拠を中心として「三田 覚之(大阪大学博士後期課程) ②「来迎図の尊像構成と迎講に関する一考察」法華寺本菩薩・童子幅を中心に「安藤香織(当館登録室アソシエイトフェロー) ③「日本古代における木彫像の樹種と用材観Ⅲ-八・九世紀を中心に(補遺)」金子啓明(慶應義塾大学教授/当館特任研究員)・岩佐光晴(成城大学教授/当館名誉館員)・能城修一(森林総合研究所木材特性研究領域チーム長)・藤井智之(森林総合研究所関西支所長)

◆国立博物館の展示案内

- 〈京都国立博物館〉 特別展観「没後200年記念 上田秋成」7月17日(土)~8月29日(日)
- 〈奈良国立博物館〉 平城遷都1300年記念「大遣唐使展」4月3日(土)~6月20日(日)
- 〈九州国立博物館〉 日本磁器ヨーロッパ輸出350周年記念「ノリに咲いた古伊万里の華」4月6日(火)~6月13日(日)

- *6 特別展「誕生!中国文明」関連事業、事前申込制、受講料1,000円、詳細は本誌3ページをご覧ください
- *7 特別展「誕生!中国文明」関連事業、有料イベントです。詳細は本誌3ページまたは当館ホームページをご覧ください
- *8 特別展「誕生!中国文明」関連事業、無料イベントです。詳細は本誌3ページまたは当館ホームページをご覧ください

1 TUE	15:00 列品解説「因幡堂薬師縁起絵巻をみる」14:00 本館3室
2 WED	
3 THU	14:00
4 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
5 SAT	時間延長(18:00まで) 11:00 13:30 14:00 14:30 15:00 月例講演会「時絵の歴史と八橋時絵螺鈿硯箱」13:30 平成館大講堂*1
6 SUN	時間延長(18:00まで) 14:30 「細川家の至宝」
7 MON	休館日
8 TUE	列品解説「鷹見泉石像」14:00 本館8室
9 WED	14:30
10 THU	14:00 14:00 14:30
11 FRI	14:30
12 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
13 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 「平成21年度新収品」
14 MON	休館日
15 TUE	15:00 列品解説「日本を歩く」14:00 本館16室および20室 親子のギャラリー「日本美術のつくり方 2」
16 WED	14:00
17 THU	14:00 14:30
18 FRI	15:00
19 SAT	時間延長(18:00まで) 11:00*2 13:30 14:00 15:00
20 SUN	時間延長(18:00まで) 12:30, 14:00 14:00 ♪チェロとハープのコンサート 15:00 平成館ラウンジ*3
21 MON	休館日
22 TUE	臨時休館日
23 WED	14:30
24 THU	14:00 14:30
25 FRI	14:30
26 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00
27 SUN	時間延長(18:00まで) 11:00 14:00 14:30
28 MON	休館日
29 TUE	15:00 列品解説「清期末期の光景」14:00 平成館企画展示室
30 WED	

1 THU	14:00
2 FRI	15:00
3 SAT	時間延長(18:00まで) 11:00 13:30 14:00 15:00
4 SUN	時間延長(18:00まで) 14:30 ♪親子で楽しむコンサート〜長唄 三味線三味〜 11:00, 14:00 平成館大講堂*3
5 MON	休館日
6 TUE	15:00 列品解説「頭上に宇賀神を表わす弁才天像」14:00 本館11室 「誕生! 中国文明」
7 WED	
8 THU	14:00 14:00 14:30
9 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30
10 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 記念講演会「文字の発生と歩み」13:30 平成館大講堂*5
11 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 納涼東博奇席 13:30 平成館大講堂*3
12 MON	休館日
13 TUE	列品解説「ミイラについて」14:00 平成館企画展示室
14 WED	14:00 14:30
15 THU	14:00 14:30
16 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
17 SAT	時間延長(18:00まで) 11:00*2 13:30 14:00 15:00 連続講座「中国文明の誕生」13:00 平成館大講堂*6 ワークショップ「友禅染」10:00, 14:30 平成館小講堂*4
18 SUN	時間延長(18:00まで) 12:30, 14:00 14:00 連続講座「中国文明の誕生」13:00 平成館大講堂*6
19 MON	時間延長(18:00まで) 連続講座「中国文明の誕生」13:00 平成館大講堂*6
20 TUE	休館日
21 WED	
22 THU	14:00 14:30
23 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 列品解説「重文 李白観瀑図」18:30 本館20室 記念公演「チェンミン スペシャルコンサート」18:30 平成館大講堂*7
24 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 月例講演会「友禅 技法の歴史」13:30 平成館大講堂*1
25 SUN	時間延長(18:00まで) 11:00 14:00 14:30 親子のギャラリー「日本美術のつくり方 2」
26 MON	休館日
27 TUE	列品解説「磁州窯の枕」14:00 本館14室 「台東区の伝統工芸職人展」
28 WED	14:30
29 THU	14:00
30 FRI	夜間開館(20:00まで) 記念公演「京劇のタペー見方・楽しみ方」18:30 平成館大講堂*8
31 SAT	時間延長(18:00まで) 11:00 14:00

- 👤=ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所:本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる浮世絵展示ガイド、集合場所:本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所:本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所:本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる樹木ツアー、集合場所:本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる考古展示室ガイド、集合場所:平成館考古展示室入口
- 👤=ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、集合場所:法隆寺宝物館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所:本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによるたてもの散歩ツアー、集合場所:本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる茶会、集合場所:本館1階エントランス
(参加費500円、先着30名、開始30分前に集合場所で整理券配布)

- 👤=ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所:本館1階エントランス
(先着20名、開始30分前に集合場所で整理券配布)
- 👤=黒田記念館開館日、木曜・土曜13:00~16:00
- 👤=ミュージアムシアター「興福寺 阿修羅像」(~6/27) 上映 10:00 11:00 12:00 14:00 15:00 16:00 各回30名、集合場所:本館1階エントランス(詳細は前号15ページをご覧ください) 7月の上演演目は、決まり次第当館ホームページにてお知らせします。
- *1~*8は、本誌15ページをご参照ください。
- *屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。
- *上記の予定は予告なく変更になることがあります。
- 当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。

8/1まで 9/5まで